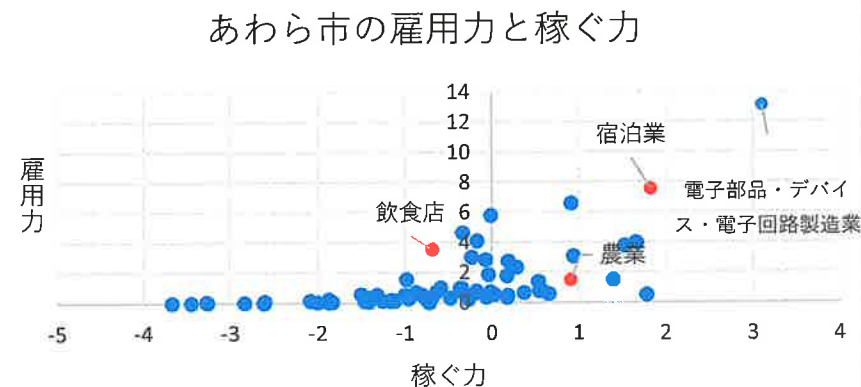
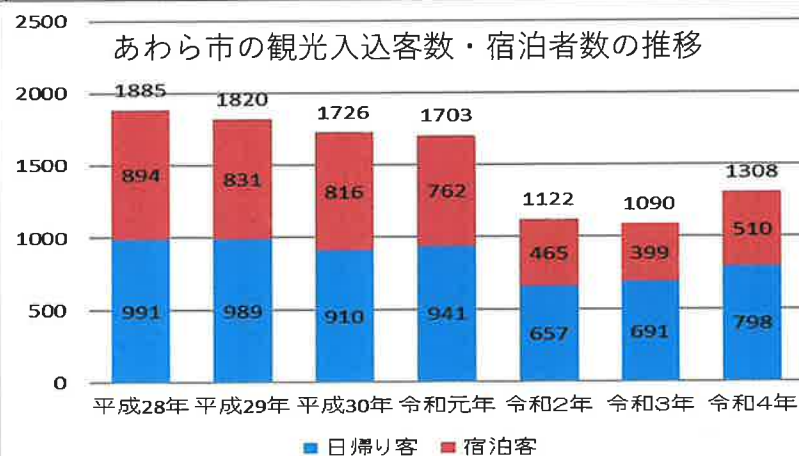


地方創生SDGs課題解決モデル都市提案書（提案様式1）

1. 地域概要

- あわら市は平成16年に旧芦原町と旧金津町が合併して誕生した市で、福井県の最北端に位置
- 人口は26,469人（令和6年3月1日現在）で、**10年間で約3,000人減少**
- 「関西の奥座敷」と称される**県内屈指の温泉地「あわら温泉」**があり、東尋坊や大本山永平寺、福井県立恐竜博物館などの有名観光地へのアクセスが良好な宿泊拠点
- 令和6年春には**北陸新幹線芦原温泉駅の開業**を控え関東圏からの注目度が高まることが期待されるが、**効果を持続させることが重要**
- あわら市では、製造業に次いで、温泉旅館などの**宿泊業**が雇用力と稼ぐ力を持っている。この**宿泊業**と、あわら温泉に深く関わる**飲食業**や**農業**などについて、地場に根付く産業として、今後さらに**稼ぐ力と雇用力を底上げしていくことが地域存続に直結**するため、**あわら温泉の活性化と持続可能な地域経営の体制づくり**が不可欠





地方創生SDGs課題解決モデル都市提案書（提案様式1）

1. 地域概要

2023年度 「あわらし観光まちづくりビジョン」 策定
＜アドバイザー＞

観光庁の観光カリスマ、官民連携のまちづくり専門家など4名

＜策定委員＞

市内の観光事業者、商工業者、農業者、県内交通事業者、市民代表、
学生など17名

4回の策定員会のほか、先進地視察や3回のワークショップ、20回のミーティングを行い、議論を重ねてビジョンを策定。

「官民連携でつくる持続可能なまち」を目指して、ビジョン策定段階から行政だけでなく、地域の人たちと一緒に検討を行う。

地方創生SDGs課題解決モデル都市提案書（提案様式1）

1. 地域概要

【あわら市観光まちづくりビジョン】

Mission (理念)

来たい、住みたい、オススメしたい
世界に愛されるまち AWARA

Vision (目標)

私たちにも、訪れる人にも、**笑顔**が巡るまち

Value (行動指針)

- i. チャレンジ精神を忘れず、みんなで連携しよう
- ii. 自分たちがまちに誇りを持ち、笑顔になれることに自ら取り組もう
- iii. 訪れる人が笑顔になれるよう、おもてなししよう
- iv. 域内消費を促進し、地域経済の成長に貢献しよう
- v. 環境に優しい持続可能なまちを目指そう

Action Plan (行動計画)

温泉街の観光拠点強化
地域連携による魅力創出
観光まちづくりの推進体制整備
未来に続くまちづくり

地方創生SDGs課題解決モデル都市提案書（提案様式1）

2. 課題

関連するゴール



経済

<課題>

観光事業者の人材不足
雇用のミスマッチ
あわら温泉宿泊者数減少
地域経済の縮小

環境

<課題>

農業者の担い手不足
耕作放棄地の増加
空き家、空き店舗の増加

経済・環境・社会の各側面をつなぐ
地域経営主体の創出・持続が必要

社会

<課題>

若者の市外流出と人口減少
行政と民間の連携不足
住民のエンゲージメント未把握

地方創生SDGs課題解決モデル都市提案書（提案様式1）

2. 課題 【あわら市観光まちづくりビジョン アクションプラン案】

笑顔につながるアクションプラン	実施例
1. 温泉街の観光拠点強化 	・拠点施設の整備（総湯、体験拠点など中核事業の整備） ・湯のまち広場エリアの整備（交通再編、ゾーニングなど） ・温泉街のまち歩き導線の整備 ・市内外からの民間投資を促進
2. 地域連携による魅力創出  	・空き家、空き店舗（カフェ、ワーケーション、チャレンジショップ、コミュニティスペースなど） ・既存企画の磨き上げ（あわら湯かけまつりを世界へ発信） ・飲食店との連携推進（泊食分離） ・農業との連携推進（地元農家、園芸カレッジとの連携） ・若い世代との連携推進（若者と事業者のマッチング） ・周辺市町との広域連携（永平寺や東尋坊、恐竜とのコラボ） ・市民の観光まちづくり参加（エンゲージメント調査）
3. 未来に続くまちづくり   	・ゼロカーボンシティの推進（バイオガス発電、JR芦原温泉駅と温泉街の送迎バスを一元化、EVバスの導入） ・若い世代の愛着を造成 ・水田風景の維持と磨き上げ ・あわら温泉の泉源調査 ・地産地消の促進 ・移住の促進
4. 観光まちづくりの推進体制整備 （上記の好循環をつくるための体制）	・観光関連データの収集及び整備（観光消費額など） ・指標の設定、検証、更新（エリア全体でのデータ活用） ・観光まちづくり推進組織の設立検討（運営主体、財源、人材など）

令和6年度から3ヵ年かけて官民で事業推進を進める予定（7ページの行程表参照）だが、そのためのアクションプランに基づく取組の具体化（官民の役割分担や実現可能性の精査）や持続可能な地域経営主体の創出に結びつく推進体制の構築が課題。本事業により専門家の支援を受けながら検討したい。

地方創生SDGs課題解決モデル都市提案書（提案様式1）

2. 課題

関連するゴール



令和5年度に、持続的な観光地経営を行っていくための「あわら市観光まちづくりビジョン」を策定。令和6年度には、ビジョンを実現するために、**アクションプランの具体化**を進めるとともに、地域経営の主体検討や面的再生に向けたコア事業の検討、エリア全体の基盤づくりなど、**持続可能なエリアにしていくための推進体制づくり**を実施していきたい。

【官民連携の観光まちづくり推進体制の構築】



- ・持続可能な地域経営を行っていくための今後の地域の在り方を検討する

【アクションプランの実現可能性と役割分担検討】



- ・主体的に関わるプレイヤーを育てる
- ・行政、民間で連携と役割分担を行う
- ・実現可能なアクションプランプランを具体化していく

【ランドスケープ基本構想・デザイン】



- ・民間投資を促進するようなハード整備の構想を描く

【公設民営施設の運営方法再検討】



- ・持続可能な運営方法を検討

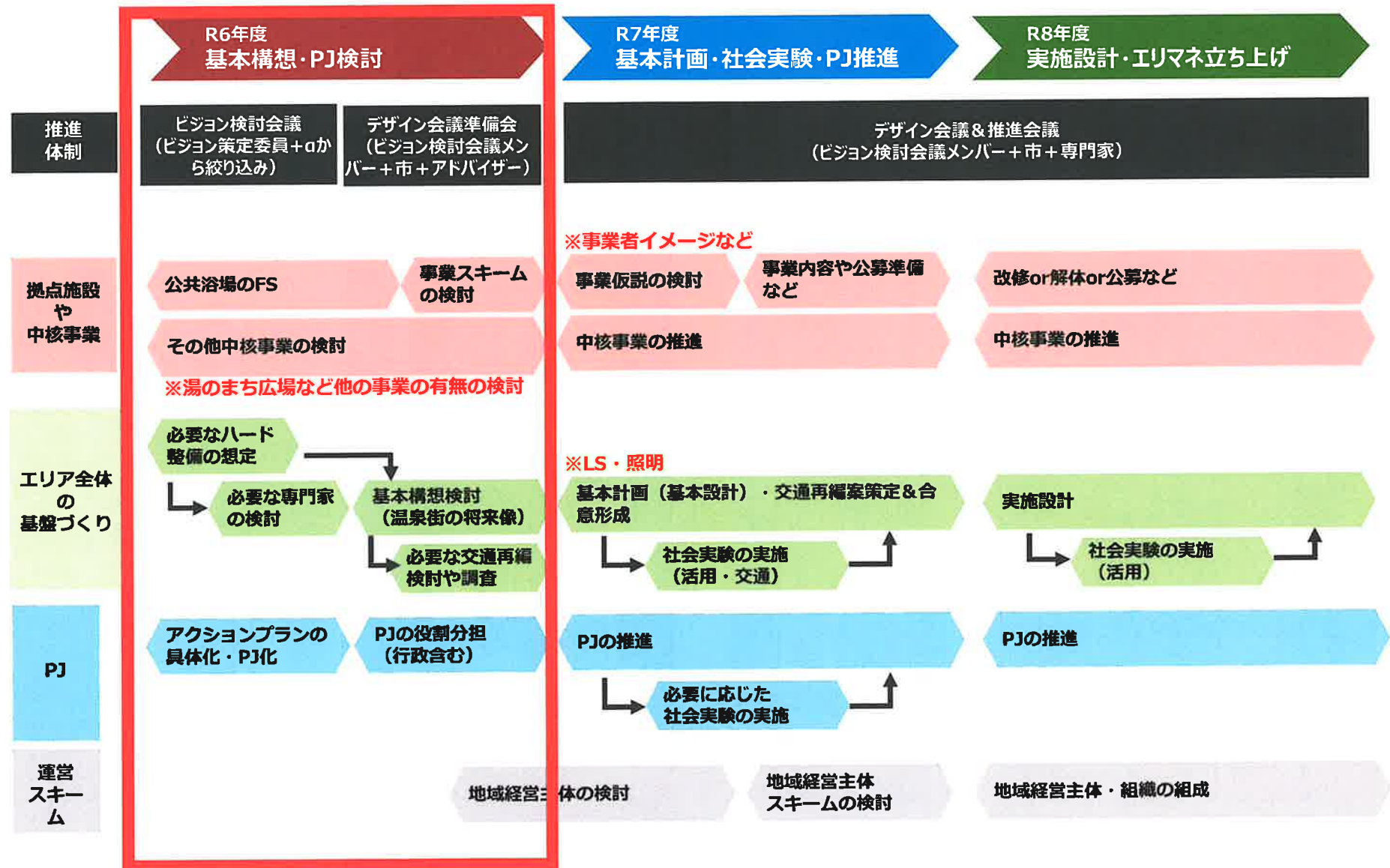
【温泉街の交通、駅周辺改変の検証】



- ・環境に配慮した交通再編の検討（芦原温泉駅の送迎一本化、EV化）

地方創生SDGs課題解決モデル都市提案書（提案様式1）

推進プロセス



地方創生SDGs課題解決モデル都市提案書（提案様式1）

3. 事業経費

科目	内訳	金額
委託費	事業全体の推進方針の立案・地域経営主体の創出に向けた骨格検討業務 （専門家派遣にかかる人件費・旅費込み）	
	その他経費 ランドスケープ基本構想デザイン費： 交通改変検討調査費： FS調査費：	
合計		20,000,000円



地方創生SDGs課題解決モデル都市提案書（提案様式1）

4-1. 指定する専門家の情報

木村 隼斗 氏

4-2. 専門家への承諾有無

ご承諾 有

4-3. 当該専門家の経歴及び実績

※自ら専門家を指定する場合のみ記載